



組織の再編に向けて 組織対策交流会開催

東京支部は6月16日～17日にかけて、湯沢東映ホテルにおいて「組織対策交流会」を開催した。20人の仲間が参加した。初日は、講師に東日本本部の中谷執行委員を招き、「東日本本部の現状、国労運動の継承・組織再編」について講演を受けた。そのあと3班に分かれて分散交流会を開催した。

2日目は、分散交流会報告と全体討論、東京地本の佐藤副委員長から、東京地本の現状報告がされ、鈴木書記長が集約をし、当面する取り組みについての提起がされた。

東日本本部 中谷執行委員からの報告

- 本部提起の「5年ビジョン」も最終年となり、今年の全国大会で総括がされると思う。
- 若手組合員の脱退が続いた。私たちの世代が退職したのちに役員や責任を負う、というところが大きいと思う。各級機関でも青年層の横のつながりを意識して取り組みを進めている。改めて「労働組合に加入している意味」を確認しあおう。
- 8月の東日本定期大会以降、東日本管内の地方本部を首都圏地本と東北地本の二地本体制へ移行する準備を進める。
- 組織再編に向けて、再来週第1回のプロジェクトがあるので、わかりづらい部分については「職場討議資料」を作成して周知したい。

各分散会から報告

第一分散会

- ・駅と運輸区の分散会でした。本体に組合員がいない中での組織対策は大変。
- ・Sさんの国労加入経緯についてです。どこの職場へ行っても国労組合員がいた。自分は組合を何度か変えたが、国労は一貫して労働者のために闘っているイメージがあった。一人、二人と加入してきていることに自信をもって国労加入を訴えよう、と強い決意がありました。

第二分散会

- ・エルダーで労働組合のない職場の方から、労働組合の重要性の報告があった。JRはもとより下請け会社は労働条件が悪い。改善させる取り組みが必要だ。

第三分散会

- ・分会として以前は月1回集まっていたが、全員エルダーになった現在も2ヶ月に1回、集まる場を設けている。
- ・東京駅は多機能戦略で、いくつかのパートができるようにされている。
- ・電設職場は、月45時間以上の超勤をさせないようにしているが、超勤除外項目の（自学・自習）でタダ働き



させられている。

- ・I駅のアクセス社員の労働条件がひどい。月12徹。本人の同意なしに休日出勤を強いられている。現在、支部が対策を進めている。
- ・出向会社と独自の交渉をするために、自分たちも学習する必要がある。打開策を考えたい。
- ・財政担当者が大変そうなので、プロジェクト財政、退職者のアルバイトなども活用してみては？



東京地本 佐藤副委員長からの報告

- ⇒60歳以上の組合員が年間200名～300名退職していく。大国労時代と違って組合員が点在している。職場での事象をどうつかみ、運動を職場の仲間へ見せていくのか。
- ⇒今までの一本釣りから、全組合員参加での組織対策へとシフトチェンジが必要。
- ⇒レクなども必要だが、並行して学習闘争も大切である。地本としても「労働講座」に取り組んでいる。
- ⇒地本は奇数月に職場オルグに入っている。新入社員も職場へ配属になっているが、グッズの活用と同時に、職場でのかかわりを持っていこう。
- ⇒東労組の大量脱退があったが、国労がその受け皿になっていない。組合加入率も16%となっている。同時に脱退も出ている。職場での取り組みと機関での丁寧な議論を大切に運動を進めていこう。

全体交流での意見

- ⇒貫通の時間に車イス対応があったり、業務が輻輳することが多い。2徹しかいないので超勤で対応せざるを得ない。また成田線は1時間に2本しかないので、1本逃すと40分～50分待たなければならない。
- ⇒9月から常磐線も「お出かけサポートシステム」を導入する。しっかりとした教育をさせていく。
- ⇒会社がジョブローテーションに舵を切りすぎて、仕事に精通している仲間が出されてしまい、次の人材が育っていない。会社の言う「技術継承」が出来ていない。
- ⇒T駅は各パートに分かれている。パートが違くと名前も顔もわからない。
- ⇒駅で「困った人がいたら声をかけてください」と放送しているが、これだけ駅員を減らしておいて誰が対応するのか？ホーム要員も削減しておいて、列停を押すのも旅客任せである。安全に対してこんな無責任な会社はない。
- ⇒各職場に問題点はあるのだろうが要求が上がってこない。一つ、二つでもよいので要求を上げてほしい。

書記長集約

- ・今交流会の内容を支部でも精査し、今後の運動につなげていく。
- ・今後、分会の統合も含めて、遠慮なく支部に相談してほしい。
- ・レクなどを通じて集まる場を設けていく。
- ・エルダー職場では、パワハラなどのコンプライアンスに抵触するような職場もある。地本や東日本本部、弁護士と相談しながら取り組みを進めていく。また、こうした実態を把握し、改善を求める取り組みを進めるため「出向者交流会」を計画する。
- ・TUNAGUアプリは、全組合員の登録を目指して取り組んでいく。
- ・情報類の発送については引き続き進めていく。住所変更などあった場合は支部に報告を。